

ジェンダー研究センター彙報<平成12年度>

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

職名は発令時による

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿 (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長(併)	波平恵美子 (平成12年4月1日～平成14年3月31日)	研究員 (非常勤講師)	小林富久子 (早稲田大学教授) (同上)
文教育学部教授	天野 正子 (同上)	研究協力員	根村 直美 (平成12年4月1日～平成13年3月31日)
文教育学部教授	箕浦 康子 (同上)		足立真理子 (専修大学非常勤講師) (平成12年4月18日～平成13年3月31日)
理学部教授	前田ミチエ (同上)		
理学部教授	今野美智子 (同上)		
生活科学部教授	駒城 素子 (同上)		新井 淑子 (埼玉大学教授) (同上)
生活科学部教授	戒能 民江 (同上)		天野 正子 (本学人間文化研究科教授) (同上)
人間文化研究科助教授	米田 俊彦 (同上)		市古 夏生 (本学文教育学部教授) (同上)
人間文化研究科助教授	竹村 和子 (同上)		稲葉奈々子 (茨城大学人文学部専任講師) (同上)
ジェンダー研究センター教授	伊藤 るり (平成12年4月1日～)		
ジェンダー研究センター教授	館 かおる (平成8年5月11日～)		

2) スタッフ名簿 (括弧内は在任期間)

センター長(併)	波平恵美子 (平成12年4月1日～)	大井 玄 (国立環境研究所所長) (同上)
専任教授	伊藤 るり (平成12年4月1日～)	大海 篤子 (元拓殖大学非常勤講師) (平成12年10月1日～)
	館 かおる (平成8年5月11日～)	大口勇次郎 (本学人間文化研究科教授) (同上)
外国人客員教授	Anne Walthall (アン・ウォルソール) (カリフォルニア大学アーヴァイン校教授) (平成12年4月6日～平成12年9月27日)	大沢 真理 (東京大学社会科学研究所教授) (同上)
	Tani E. Barlow (タニ・E・バーロウ) (ワシントン大学女性学教授) (平成12年10月3日～平成13年3月28日)	太田 孝子 (岐阜大学助教授) (同上)
客員教授(国内)	川嶋 瑤子 (スタンフォード大学「女性とジェンダー研究所」研究員) (平成12年4月1日～平成13年3月31日)	戒能 民江 (本学生活科学部教授) (同上)
		木村くに子 (東京農業大学非常勤講師) (同上)

熊谷 圭知 (本学文教育学部助教授) (同上)		松田 久子 (元理化学研究所非常勤職員) (同上)
戈木クレイグヒル滋子 (東京都立保健科学大学助教授) (同上)		皆川美恵子 (十文字学園大学女子大学教授) (同上)
佐藤(頼住)光子 (本学文教育学部助教授) (同上)		宮尾 正樹 (本学文教育学部教授) (同上)
鈴木 伸枝 (ハワイ大学大学院 博士課程 Ph.D.取得資格) (同上)		村松 安子 (東京女子大学文理学部教授) (同上)
高嶋 元洋 (本学文教育学部教授) (同上)		山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授) (同上)
竹村 和子 (本学人間文化研究科助教授) (同上)		山本 禮子 (和洋女子大学名誉教授) (同上)
田澤 薫 (国際医療福祉大学専任講師) (同上)	研究機関研究員	山西 貞 (本学名誉教授) (同上)
田中由美子 (JICA 社会開発部長) (同上)		長妻由里子 (平成12年 4月 1日～ 平成13年 3月31日)
柘植あづみ (明治学院大学助教授) (同上)		黒川 知美 (同上)
利谷 信義 (東京経済大学教授) (同上)	研究支援推進員	森本 恭代 (同上)
外山 紀子 (津田塾大学専任講師) (同上)	人間文化研究科 リサーチ・アシスタント	山腰 京子 (平成12年 9月18日～ 平成13年 3月31日)
中山まき子 (鳴門教育大学助教授) (同上)	教務補佐員	小山 直子 (平成12年 4月 1日～ 平成13年 3月31日)
中山 道子 (元立教大学助教授) (同上)		徐 阿貴 (平成12年 5月31日～ 平成13年 3月28日)
西山千恵子 (東京国際大学非常勤講師) (同上)	重点研究プロジェ クト教務補佐員	荻野 正恵 (平成12年 4月 1日～ 平成13年 3月31日)
福田須美子 (相模女子大学助教授) (同上)		造力 由美 (同上)
堀 千鶴子 (城西国際大学専任講師) (同上)	3) 研修員等 公立大学研修員	竹内 ゆり (同上)
松浦 いね (元たばこ総合研究センター主任研員) (同上)		安藤 玲子 (同上)
前田 侯子 (本学名誉教授) (同上)		中村 若生 (平成12年 9月18日～ 平成13年 3月31日)
		池田 政子 (山梨県立女子短期大学教授) (平成12年10月 1日～ 平成13年 3月31日)

2. 会議関係

1) 運営委員会の開催

平成12年4月18日／6月26日／7月17日／9月22日／10月16日／11月20日／平成13年1月22日／3月26日(持回り)

3. 研究調査活動

1) センター研究プロジェクト

I-1-1 「アジアにおける女性と開発(WID)」研究／「開発とジェンダー教育プログラム」に関する研究

〔研究担当〕

伊藤 るり (ジェンダー研究センター教授)

大沢 真理 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京大学社会科学研究所教授)

村松 安子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京女子大学教授)

田中由美子 (ジェンダー研究センター研究協力員・JICA 社会開発部長)

熊谷 圭知 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部助教授)

森本 恭代 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

国際シンポジウム「アジアの女性と開発」(1996年12月18日)とタンダム・トゥルン(平成8年度外国人客員教授)の夜間セミナーをもとに明石書店より単行本刊行に向け、編集作業を行なった。

I-1-2 「国際移動とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

伊藤 るり (ジェンダー研究センター教授)

足立真理子 (ジェンダー研究センター研究協力員・専修大学非常勤講師)

稲葉奈々子 (ジェンダー研究センター研究協力員・茨城大学専任講師)

鈴木 伸枝 (ジェンダー研究センター研究協力員・ハワイ大学大学院博士課程 Ph.D.取得資格)

徐 阿 貴 (本学人間文化研究科リサーチ・アシスタント)

〔研究内容〕

①平成12年7月26日(水)に理論研究会を開催した。

②平成12年9月12日(火)に研究会を行った。

於：附属図書館第二会議室 14:30~17:30

講師：カトリーヌ・キミナル (パリ第7大学教授)

ジョスリーヌ・ストライフ＝フェナール (パリ第7大学教授)

③インタビュー調査実施

I-2-1 「ジェンダーと健康」に関する研究

〔研究担当〕

ジェンダーと健康(GHS)研究会メンバー

大井 玄 (ジェンダー研究センター研究協力員・国立環境研究所所長)

戈木クレイグヒル滋子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京都立保健科学大学助教授)

柘植あづみ (ジェンダー研究センター研究協力員・明治学院大学助教授)

田澤 薫 (ジェンダー研究センター研究協力員・国際医療福祉大学専任講師)

中山まき子 (ジェンダー研究センター研究協力員・鳴門教育大学助教授)

松原 洋子 (本学人間文化研究科助手)

芦野由利子 (日本家族計画連盟)

浮ヶ谷幸代 (千葉大学大学院社会文化研究科)

高橋 都 (東京大学大学院医学系研究科)

原 ひろ子 (放送大学教授)

東 優子 (ノートルダム清心女子大学助教授)

兵藤 智佳 (東京大学大学院教育学研究科博士課程)

宮原 忍 (母子愛育会日本家庭子ども総合研究所)

根村 直美 (ジェンダー研究センター研究員)

〔研究内容〕

「ジェンダーと健康(GHS)研究会」を開催。

①原ひろ子・根村直美・お茶の水女子大学ジェンダー研究センター・「ジェンダーと健康」研究会編著『健康とジェンダー』(明石書店)を刊行した。(平成12年11月)

②根村直美が『ジェンダー研究』第4号に「ポルノグラフィに関する一試論—哲学・倫理学における議論を中心に—」を執筆した。

II-1-1 「映像表現とジェンダー」に関する研究

〔研究担当〕

小林富久子 (ジェンダー研究センター客員教授・早稲田大学教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター教授)
磯山久美子 (本学大学院人間文化研究科博士課程)
フェミニズムと現代思想「映像表現とジェンダー」研究会メンバー

〔研究内容〕

- ①フェミニズムと現代思想「映像表現とジェンダー」研究会を開催。於：附属図書館第二会議室 (13:00~17:00)
- 4月6日(木) 谷口千吉監督『暁の脱走』ビデオ鑑賞。吉田司雄(工学院大学講師)による「戦場と性の記憶—田村泰次郎による映画史」の報告。
- 5月26日(金) 浜野佐知監督『第七官界彷徨—尾崎翠を探して』ビデオ鑑賞。浜野監督による報告。
- 7月25日(火) 浜野佐知監督『平成版阿部定』『二つのゼロ』ビデオ鑑賞。浜野監督による報告。
- 9月29日(金) リドリー・スコット監督『GI ジェーン』ビデオ鑑賞。佐藤文香(慶應義塾大学SFC研究所訪問研究員)による報告。
- 10月27日(金) ステファン・エリオット監督『プリシラ』ビデオ鑑賞。ヴィヴィアン佐藤(映画評論家、イラストレーター)による報告。
- 12月22日(金) デビット・フィンチャー監督『ファイトクラブ』ビデオ鑑賞。ヴィヴィアン佐藤による報告。

平成13年

2月19日(月) NHK『おはようジャーナル—アジアからの花嫁を考えるI、II』『外国人花嫁と村の10年』ビデオ鑑賞。鈴木伸枝(ハワイ大学文化人類学博士課程)による「『花嫁』と『共生』社会の陥穽—『外国人花嫁と村の10年』」の報告。

- ②お茶の水女子大学ジェンダー研究センター／富山太佳夫・小林富久子・館かおる編『フェミニズムと知』世織書房の刊行に向け、執筆・編集作業を行った。

II-1-2 「公共芸術におけるジェンダー」

〔研究担当〕

西山千恵子 (ジェンダー研究センター研究協力員・東京国際大学非常勤講師)

〔研究内容〕

「公共芸術とジェンダー」に関わる論文執筆を行った。『フェミニズムと知』に掲載予定。

II-2-1 「日記に見る近世日本の女性と社会」

〔研究担当〕

大口勇次郎 (ジェンダー研究センター研究協力員・人間文化研究科教授)
皆川美恵子 (ジェンダー研究センター研究協力員・十文字学園女子大学教授)
頼梅・研究会メンバー

〔研究内容〕

- ①論文集の発行に向けて執筆会議を開催した。
- ②ジェンダー研究センター頼梅・日記研究会報告書・大口勇次郎編『頼梅・日記の研究』刊行した。(平成13年3月)

II-2-2 「視覚文化／身体／ジェンダー」研究

〔研究担当及び内容〕

長妻由里子 (ジェンダー研究センター研究機関研究員) が研究委員会で発表を行った。「視覚文化／身体／ジェンダー」に関わる論文執筆を行った。

III-1-1 「ジェンダー規範とその作用形態」に関する研究

〔研究担当〕

たばこ総合研究センターとの〈国内共同研究プロジェクト〉として推進。

「女性とたばこ」研究会メンバー

松浦 いね (ジェンダー研究センター研究協力員・たばこ総合研究センター客員研究員)

館 かおる (ジェンダー研究センター教授)

堀 千鶴子 (ジェンダー研究センター研究協力員・城西国際大学専任講師)

山崎 明子 (千葉大学大学院博士課程)

磯山久美子 (本学人間文化研究科博士課程)

中村 文 (本学人間文化研究科博士課程)

藤田 和美 (本学人間文化研究科博士課程)

〔研究内容〕

「女性とたばこ」研究会を開催。たばこ総合研究センター／お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編『女性とたばこの文化誌』(仮)の刊行に向けた研究を行った。

III-1-2 「植民地下朝鮮における女子中等教育」の研究

〔研究担当〕

「高等女学校研究会」メンバー

山本 禮子 (ジェンダー研究センター研究協力員・和洋女子
大学名誉教授)

新井 淑子 (ジェンダー研究センター研究協力員・埼玉大学
教授)

福田須美子 (ジェンダー研究センター研究協力員・相模女子
大学助教授)

太田 孝子 (ジェンダー研究センター研究協力員・岐阜大学
助教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター教授)

[研究内容]

単行本『朝鮮の高等女学校 (仮)』刊行のため高等女学校研
究会を開催した。於：ジェンダー研究センターセンター長室。

平成12年

7月12日 (水) 「学校史の寄贈収集状況」の確認

9月15日 (金) 「学校史翻訳」の検討。

平成13年

2月27日 (火) 「執筆の為の分析視点」の検討。

3月24日 (土) 「執筆校正」の検討。

Ⅲ-1-3 「東アジアにおけるジェンダー」研究

[研究担当]

タニ・E・バーロウ (ジェンダー研究センター外国人客員教
授・ワシントン大学教授)

波平恵美子 (ジェンダー研究センターセンター長・本学文
教育学部教授)

竹村 和子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間
文化研究科助教授)

宮尾 正樹 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文
教育学部教授)

伊藤 るり (ジェンダー研究センター教授)

徐 阿 貴 (本学人間文化研究科リサーチ・アシスタント)

[研究内容]

①タニ・E・バーロウ教授が、平成12年11月8日 (水) ~12月
13日 (水) まで6回にわたって「(インター) ナショナル・
フェミニズムと中国」の夜間セミナーを行った。於：附属
図書館第二会議室 (18:30~20:30)。参加者延べ373名。

11月8日 (水) 「『西洋フェミニズム』はなぜ不適切な名称
か?」

11月15日 (水) 「非ナショナル (もしくは地域的) フェミニ
ズムの主体とは何か?」

11月22日 (水) 「女の歴史は、社会的出来事の残渣、流動す

る言語使用、政治的偶発性、ナショナリスト的で反
植民地主義的な開発戦略のなかからいかにして引き
出せるか?」

11月29日 (水) 「植民地的近代という特定の歴史のなかで女
の主体性や、市民性、優生学、人種改良、『セク
シュアリティ』、人類学などが包含するインターナ
ショナルな問題を、私たちはどう読むべきか?」

12月6日 (水) 「(ポスト) 社会主義的近代とは何か? またそ
れと「中国」フェミニズムとの関係は何か?」

12月13日 (水) 「普遍的な『ポスト西洋的』フェミニズムの
歴史の記述はネーションから地域への移行 (いわゆ
るグローバル化) のなかでどのような課題に直面し
ているのか?」

②「グローバル化とジェンダー規範」研究会と共催で平成13
年3月22日 (木) 公開シンポジウム「アジアにおけるグ
ローバル化とジェンダー」を開催した。於：理学部3号館
701室、参加者81名。

基調報告 : タニ・E・バーロウ教授

パネリスト報告: 吉村 真子 (法政大学社会学部助教授)

戒能 民江 (本学生活科学部教授)

館 かおる (ジェンダー研究センター教授)

コメンテーター: 石塚 道子 (本学文教育学部教授)

田嶋 淳子 (淑徳大学社会学部教授)

司 会 : 波平恵美子

通 訳 : 伊藤 るり

③タニ・E・バーロウ教授が『ジェンダー研究』第5号に
“Asia, Gender and Scholarship Under Processes of Re-
regionalization” を執筆した。

Ⅲ-2-1 「日本社会のジェンダー観」に関する研究

[研究担当]

アン・ウォルソール (ジェンダー研究センター外国人客員教
授・カリフォルニア大学アーヴァイン校教授)

波平恵美子 (ジェンダー研究センターセンター長・本学文
教育学部教授)

大口勇次郎 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間
文化研究科教授)

内田 忠賢 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間
文化研究科助教授)

市古 夏生 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文
学部教授)

育学部教授)

佐藤 (頼住) 光子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部助教授)

高嶋 元洋 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部教授)

館 かつお (ジェンダー研究センター教授)

森本 恭代 (ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

①アン・ウォルソール教授が、平成12年5月17日(水)～7月5日(水)まで6回にわたって「ジェンダー研究からみる日本の歴史」の夜間セミナーを行う。於：附属図書館第二会議室(18:30～20:30)

参加者延べ283名。

5月17日(水)「アメリカにおけるジェンダー史の方法論：日本の事例を交えて」

5月24日(水)「アメリカにおける日本のジェンダー史：セクシュアリティの歴史学の動向をふくめて」

5月31日(水)「フェミニスト伝記の理論研究：日本の事例を交えて」

6月14日(水)「フェミニスト伝記史料論：松尾多勢子伝の事例から」

6月21日(水)「隔離の比較史：宮殿という場における隔離された女性の比較研究」

7月5日(水)「『大奥』と外の社会との繋がり」

②平成12年9月23日(土)公開シンポジウム「民衆文化における『大奥』—江戸城の女中たち—」

於：文教育学部1号館第1会議室、参加者51名。

メイン報告：アン・ウォルソール教授

サブ報告：松尾美恵子(学習院女子大学教授)

畑 尚子(東京都江戸東京博物館学芸員)

大口勇次郎(本学人間文化研究科教授)

司 会：館 かつお(ジェンダー研究センター教授)

内田 忠賢(本学人間文化研究科助教授)

③アン・ウォルソール教授が『ジェンダー研究』第4号に「江戸文化における大奥」を執筆した(森本恭子訳)。

IV-1-1 「大学教育とジェンダーⅣ」に関する研究

〔研究担当〕

川嶋 瑤子(ジェンダー研究センター客員教授)

天野 正子(ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間

文化研究科教授)

館 かつお(ジェンダー研究センター教授)

外山 紀子(ジェンダー研究センター研究協力員・津田塾大学専任講師)

黒川 知美(ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

天野正子、川嶋瑤子、館かつお編『大学教育とジェンダー』単行本刊行(平成14年)に向け、大学教育とジェンダーに関する統計的、総合的な研究を行った。

IV-2-1 「女性と自然科学」に関する研究

〔研究担当〕

山西 貞(ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授)

松田 久子(ジェンダー研究センター研究協力員・元理化学研究所非常勤職員)

山崎美和恵(ジェンダー研究センター研究協力員・埼玉大学名誉教授)

前田 候子(ジェンダー研究センター研究協力員・本学名誉教授)

館 かつお(ジェンダー研究センター教授)

小山 直子(ジェンダー研究センター研究支援推進員)

黒川 知美(ジェンダー研究センター研究機関研究員)

〔研究内容〕

①山崎美和恵が『ジェンダー研究』第4号に「湯浅年子博士の科学と人生—パリに生き、真実を求め続けた物理学者の軌跡」を執筆した。

②辻村みちよ資料、湯浅年子資料、保井コノ資料、加藤セチ資料の整理及び研究。

IV-2-2 「法学とジェンダー」

〔研究担当〕

利谷 信義(ジェンダー研究センター研究協力員・東京経済大学教授)

木村くに子(ジェンダー研究センター研究協力員・東京農業大学非常勤講師)

中山 道子(ジェンダー研究センター研究協力員・元立教大学助教授)

〔研究内容〕

フランセス・オルセン(平成9年度ジェンダー研究センター

外国人客員教授)の夜間セミナーの単行本刊行に向けた研究を行った。

V-1-1 「女性政策推進機構」の研究

〔研究担当〕

戒能 民江 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学生生活科学部教授)

吉川真美子 (本学人間文化研究科博士後期課程)

〔研究内容〕

「セクシュアルハラスメント研究会」を開催した。

V-1-1 「ジェンダー研究センター所蔵文献及び諸活動の情報提供システム」の研究

V-2-1 「ジェンダー研究文献のカテゴリ化」に関する研究

〔研究担当〕

館 かつお (ジェンダー研究センター教授)

小山 直子 (ジェンダー研究センター研究支援推進員)

〔研究内容〕

増永良文 (本学理学部教授)の「重点研究経費」におけるデータベース作成研究と連携、「ジェンダー研究」データベース作成の研究。

2) 学内共同研究プロジェクト

「重点研究経費」による<学内共同研究プロジェクト>として、「グローバル化とジェンダー規範に関する研究」を行った。

〔研究担当〕

波平恵美子 (ジェンダー研究センターセンター長・本学文教育学部教授)

タニ・E・バーロウ (ジェンダー研究センター外国人客員教授)

竹村 和子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科助教授)

宮尾 正樹 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学文教育学部教授)

天野 正子 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学人間文化研究科教授)

御船美智子 (本学生生活科学部助教授)

戒能 民江 (ジェンダー研究センター研究協力員・本学生生活科学部教授)

青木紀久代 (本学生生活科学部助教授)

石塚 道子 (本学文教育学部教授)

館 かつお (ジェンダー研究センター教授)

伊藤 るり (ジェンダー研究センター教授)

川嶋 瑤子 (ジェンダー研究センター客員教授)

平野 恒夫 (本学理学部教授)

藤枝 修子 (本学理学部教授)

増永 良文 (本学理学部教授)

小山 直子 (ジェンダー研究センター研究支援推進員)

〔研究内容〕

①「グローバル化とジェンダー規範」研究会を開催した。

② ジェンダー研究センターと「グローバル化とジェンダー規範」研究会共催で、平成13年3月22日(木)公開シンポジウム「アジアにおけるグローバル化とジェンダー」を開催した。(Ⅲ-1-3「東アジアにおけるジェンダー」研究参照)

③お茶の水女子大学「グローバル化とジェンダー規範」研究会編『2000年度重点研究プロジェクト「グローバル化とジェンダー規範」中間研究報告書』を刊行した(2001年3月)。

3) 国内共同研究プロジェクト

たばこ総合研究センターと共同で、単行本『女性とたばこの文化誌』(仮)の刊行に向けた研究を行った。(Ⅲ-1-1「ジェンダー規範とその作用形態」に関する研究参照)

4. 研究交流・成果公表活動

1) 公開研究会・講演会・シンポジウム

平成12年4月より平成13年3月の間の発表者及びその題目は次の通りである。

9月23日(土)公開シンポジウム

アン・ウォルソール(ジェンダー研究センター外国人客員教授・カリフォルニア大学アーヴァイン校教授)「民衆文化における『大奥』—江戸城の女中たち—」(Ⅲ-2-1「日本社会のジェンダー観」に関する研究②参照)

10月7日(土)公開講演会

“The Present Critical Scene of Queer Theory”を文教育学部英文科と共催(お茶の水女子大学国際交

流基金)。於：共通講義棟201室。参加者約300名。

講演者：イヴ・K・セジウィック（ニューヨーク市立
大学アーヴァイン校教授）

司会：大橋洋一（東京大学教授）
竹村和子（本学人間文化研究科助教授）

12月11日（月）～12月13日（水）パネル出展
世界銀行主催「グローバル・ディベロップメント
ネットワーク2000」ナレッジフェア
於：新高輪プリンスホテル

平成13年

3月22日（木）公開シンポジウム
タニ・E・バーロウ（ジェンダー研究センター外国
人客員教授・ワシントン大学教授）「アジアにお
けるグローバル化とジェンダー」（Ⅲ-1-3「東ア
ジアにおけるジェンダー」研究②参照）

2) 研究委員会

平成12年

10月23日（月）根村直美（ジェンダー研究センター研究員）
「WHOの<健康>概念とリプロダクティブ・ヘルス」

12月12日（火）足立真理子（ジェンダー研究センター研究協
力員）「<集団的アイデンティティ>と<抑圧>の
経済分析」

平成13年

1月30日（火）池田政子（公立大学研修員）
「保育とジェンダー：問題提起および解消への地域
戦略—地方公立短大における『研究-実践』の関
係の事例として

2月27日（火）長妻由里子（ジェンダー研究センター研究機
関研究員）「『プライズデイルロマンス』における視
線とジェンダー」

2) セミナー・ワークショップ

5月17日（水）～7月5日（水）夜間セミナー（計6回）ア
ン・ウォルソール「ジェンダー研究からみる日本の
歴史」（Ⅲ-2-1「日本社会のジェンダー観」に
関する研究①参照）

11月8日（水）～12月13日（水）夜間セミナー（計6回）タ
ニ・バーロウ「(インター) ナショナル・フェミニ
ズムと中国」（Ⅲ-1-3「東アジアにおけるジェ
ンダー」研究①参照）

3) 刊行物

①お茶の水女子大学ジェンダー研究センター編・刊『ジェン
ダー研究—お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年
報』第4号刊行（平成13年3月）

②原ひろ子・根村直美・お茶の水女子大学ジェンダー研究セ
ンター・「ジェンダーと健康」研究会編著『健康とジェン
ダー』明石書店（平成12年11月）

③ジェンダー研究センター頼梅・日記研究会報告書 大口勇
次郎編『頼梅日記の研究』刊行。（平成13年3月）

4) 刊行協力

国立大学協会・男女共同参画に関するワーキンググループ編
『国立大学における男女共同参画を推進するために』の作成
に協力した。

5. 研究指導・教育活動

1) 研究生・研修員

公立大学研修員：

池田政子（山梨女子短期大学教授）
「保育におけるジェンダーについての研究」
（平成12年10月1日～平成13年3月31日）

2) 学部出講・大学院担当

館 かおる

コア科目（基礎ゼミ） 教職総合演習（前期）
コア科目（総合コース） 女性問題（前期）
文教育学部 社会教育特講Ⅱ（前期）
生活科学部 ジェンダー論（後期）
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻
開発・ジェンダー論コース
ジェンダー関係論（前期）
ジェンダー関係論演習（後期）
開発ジェンダー論特論（前期）
人間文化研究科博士後期課程 人間発達学専攻
ジェンダー論講座
ジェンダー史論演習（1）・（2）

伊藤 るり

コア科目（総合コース） 女性問題（前期）
生活科学部 比較女性論（前期）
人間文化研究科博士前期課程 発達社会科学専攻
開発・ジェンダー論コース
比較ジェンダー開発論（前期）
比較ジェンダー開発論演習（後期）

開発ジェンダー論特論（前期）

人間文化研究科博士後期課程 人間発達学専攻

ジェンダー論講座

国際女性開発論演習（1）・（2）

ページ制作のために保井コノ資料を提供（1月）。

4) リファレンスサービス、資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

○コピーサービス：常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当

○ホームページ（和文・英文）の更新実施

○図書以外に関する情報提供

6. 文献・資料収集／情報提供／閲覧

1) 収集資料点数

平成12年4月から平成13年3月までに収集した資料は和漢書単行本112冊、洋書単行本107冊、その他雑誌、パンフレットなど多数。

2) 主要収集資料

ジェンダーとセクシュアリティに関する文献・資料／開発とジェンダー教育に関する文献・資料／女性と自然科学者に関する文献・資料／リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する文献・資料／アジアの女性政策と開発に関する文献・資料／女性とたばこをめぐる関係資料／韓国の女子中等教育に関する資料／韓国の女性政策に関する資料／「グローバル化とジェンダー規範」に関する研究資料など

3) 資料提供

- 「少年少女のための科学者への道」実行委員会発行『科学する心—日本の女性科学者たち』、*Blazing a Path: Japanese Women's Contributions to Modern Science*（平成13年7月発行）編集のために、ジャパリエコー社に湯浅年子、保井コノ、辻村みちよの資料を提供（7月）。
- 朝日新聞社出版局編『週刊20世紀』のテーマ別冊『女性の100年』編集のために、湯浅年子氏写真1葉、黒田チカ氏写真2葉を提供（9月発行）。
- 千葉市役所男女共同参画室発行『ハーモニー千葉』Vol. 31 コラム「歴史を拓いた女性たち 保井コノ」編集のため、アドユニバース株式会社に保井コノ氏写真1葉を提供（8月発行）。
- クレヨンハウス『月刊クーヨン』10月号特集「ヒロインをこえた女たち」編集のため、資料（「女子体操服を着てスウェーデン体操をする本校生徒」写真）提供（8月）。
- クレヨンハウス『月刊クーヨン』連載「HERSTORY」11月号編集のため、湯浅年子氏写真を提供（9月）。
- 通商産業省資源エネルギー庁、新映像産業推進センター企画ビデオ『マドモアゼルゆあさ』制作のため、株式会社カジマビジョンに湯浅年子氏関係資料を提供（10月）。
- 四電産業株式会社広報誌『ライト&ライフ』3月号特集

5) 図書・資料寄贈（敬称略）

掲載は、和書：寄贈者名『書名』（著者名）、洋書：寄贈者名書名（イタリック）（著者名）の順とした。

彩流社『ジェンダーは超えられるか』（武田悠一編）、中山道子『近代個人主義と憲法学』（中山道子）、上平初穂『男装の科学者たち』（マーガレット・アーリック）、青柳真智子『中学・高校教育と文化人類学』（青柳真智子）、向後紀代美『21世紀・ローカルからグローバルへ』（北京 JAC 第4回全国シンポジウム実行委員会）、佐藤令子『菊と十字架（下）』（佐藤令子）、長江曜子『欧米メモリアル事情』（長江曜子）、市田知子 *Women and Families in Rural Japan*（堤マサエ）、パトリシア・ウベロイ *Kinship and Gender in South and Southeast Asia* (Leela Dube), *Women, Democracy and the Media* (Sonia Bathla), *Family, Kinship and Marriage in India* (Patricia Uberoi), *Social Reform, Sexuality and the State* (Patricia Uberoi), *Women and Kinship* (Leela Dube), *Matrimonial Property Law in India* (B. Siramayya), 原ひろ子 *Punjabi Kinship and Marriage* (Paul Hershman), *The Household Dimension of the Family in India* (A.M. Shah), *Human Family Systems* (Pierre L. van den Berghe), *The Negro family in British Guiana* (Raymond T. Smith), *Daddy's Girl, Mama's Boy* (James J. Rue), *Aspects of the Analysis of Family Structure* (Ansley J. Coale), *Family* (Talcott Parsons), *Family Web* (Sarah Hobson), *Social Systems and Family Patterns* (William J. Goode), *Family and Economy in Modern Society* (David Morgan), *Concepts of Person* (Akos Ostor), *Women of the World* (Urmila Phadnis), *Inequality among Brothers* (Rubie S. Watson), *The Puritan Family* (Levin L), *Family History at the Crossroads* (Tamara Hareven), *Home, Work, and Class Consciousness* (Marilyn Porter), *The Two-paycheck Marriage* (Caroline Bird), *Marriages in India* (V. Narayan Karan)

Reddy), *The Employed Mother in America* (F. Ivan Nye), *A Picture of Freedom* (Patricia C. Mckissack), *The Javanese Family* (Hildred Geertz), *Feeding the Family* (Marjorie L. DeVault), *Indian Families of the Northwest Coast* (Claudia Lewis), *Family Size and Achievement* (Judith Blake), *Marriage and Kinship in an Island Society* (A. R. Kutty), *Mediterranean Family Structures* (J.G. Peristiany), *Family and Inheritance* (Thompson, E. P.), *A Modern Introduction to the Family* (Norman W. Bell), *Family and Community in Ireland* (Conrad M. Arensberg and Solon T), *Women in Africa* (Nancy J. Hafkin), *Women and Property in Morocco* (Vanessa Maher), *Rethinking Kinship and Marriage* (Rodney Needham), *Household and Family in Past Time* (Peter Laslett), *Mothers of Six Cultures* (William W. Lambert), *Families and How to Survive Them* (Robin Skynner), *In the Shadow of Affluence-stories of Japanese Women Workers* (Michiko Hiroki), *Sex Roles, Family & Community in Turkey* (Cigdem Kagitcibasi), *The Family* (William J. Goode), *We Didn't Have Much, But We Sure Had Plenty* (Sherry Thomas), *Children of the Kibbutz* (Melford E. Spiro), *America's Families* (Donald M. Scott), *Tobacco Coast* (Arthur Pierce Middleton), *Women Famous and Infamous* (K. L. Gauba), *Society without the Father* (Alexander Mitscherlich), *Readings on the Changing Family* (David A. Schulz), *Day Care: Resources for Decisions* (Edith H. Grotgerg), *Review of Women's Studies* (Thelma B. Kintanar), *An Evening When Alone* (Michael O'Brien), *Life of a Slave Girl* (Harriet A. Jacobs), *Feminist Research Experiences* (UNFPA), *Man, Culture, and Society* (Harry L. Shapiro), *Malay Kinship and Marriage in Singapore* (Judith Djamour), *Within the Plantation Household* (Elizabeth Fox-Genovese), *Household and Family in Past Time* (Peter Laslett), *Masako in New Zealand* (Rachel Mcalpine), *The Modernization of North African Families in the Paris Area* (Michel, Andree), *Blue-collar Marriage* (Mirra Komarovsky), *Women's Language, Socialization and Self-image* (Dede Brouwer), *The Family Life of Old People* (Peter Townsend), *Hospital Sketches* (Louisa May Alcott), Kay B. Warren *The Violence Within* (Kay B. Warren), *Women of the Andes* (Kay B. Warren), *Indigenous Movements and Their Critics* (Kay B. Warren), 原ひろ子『ソ連邦における結婚と家族』(ア・ゲ・ハルチェフ), 『女性と職業に関する予備的研究』(原ひろ子), 『日本の文化風土における婦人ジャーナリズムの歴史的役割と展望』

(婦人ジャーナリズム研究会), 『教職員の生涯生活設計に関する実証的研究』(退職教員研究会), 『銃後史ノート』(わたちの現在を問う会), 愛媛県立今治北高等学校『愛媛県立今治北高等学校創立百周年記念写真誌』(愛媛県立今治北高等学校創立百周年記念写真誌編集委員会), 『愛媛県立今治北高等学校創立百周年記念通史』(愛媛県立今治北高等学校創立百周年記念写真誌編集委員会), 森マコト『埼玉人物事典』(埼玉県教育委員会), 原ひろ子『沖縄の冠婚葬祭』(那覇出版社), 『沖縄の冠婚葬祭便利帳』, 不二出版『性と生殖の人権問題資料集』第1巻・第2巻・索引(不二出版), 館かおる『学校をジェンダー・フリーに』(亀田温子・館かおる), 田代文子『福祉環境と生活経営』(生活経営学学会), 金沢大学『金沢大学50年史部局編』(金沢大学50年史編纂委員会), 外山友子『「蝶々」の系譜考・続』(外山友子), 原ひろ子『経済成長と人間開発』(国連開発計画), 『働く女性に伝えたかったこと』(芹沢茂登子), 館かおる『女性施設ジャーナル5』(財団法人横浜市女性協会), 松田久子『女子聖学院の創立者バーサ・F・クローソン』(J・M・トラウト), 柴山恵美子『わたちの衝撃』(柴山恵美子), 松田久子『気骨の女』(寺田和子), 『猿橋勝子: 女性として科学者として』(猿橋勝子), 原ひろ子『新しい男女像を求めて』(中村彰), 松田久子『米国宣教師夫人が見た一世紀前の秋田: 抄訳「ローラ・ガルス」ト回想録』(渡部誠一郎), 白百合女子大学『創立二十五年記念文集はばたき』(白百合女子大学), フェリス白菊会『フェリス白菊会の歴史』(フェリス白菊会歴史編纂委員会), 高等女学校研究会『방과후 아동지도 프로그램 (총론)』(한국여성개발원), 『1997 여성통계연보』(방과후 아동지도 프로그램 (총론)), 『경기도 가족 실태조사 및 대책에 관한 연구 보고서』(경기도), 『이혼가족을 위한 대책 연구』(한국여성개발원), フィンランド大使館 *Women in Finland* (Satu Apo), *Facts about FINLAND* (Päivi Elorainio), Ronaq Jahan *Bangladesh Politics* (Ronaq Jahan), *The Elusive Agenda* (Ronaq Jahan), 西山千恵子『ネオダダから21世紀型魔女へ』(“女性とアート”プロジェクト), 長島二三子『松本萬年の女弟子たち』(長島二三子), 東京女性財団『セクシュアル・ハラスメントのない世界へ』(大谷恭子他), 女性職業研究会『ジェンダー関係の差別の構造に関する実証的研究』(神田道子), 坂井光夫『拓く: 日本の女性科学者の軌跡』(都河明子他), 梨花女子大学『통일을 대비한 남북한 여성의 삶의 비교』(이화여자대학교 한국여성연구원), 神田道子: 女子教育問題研究会『女子学生の職業意識』(神田道子編), 平林美都子: ベヴァリー・カレン『レズビアン日

記』(ニコル・ブローサー), 矢崎藍『幸せくらべ』(矢崎藍), 高等女学校研究会『五十年史』(小松島高校五十年史編集委員会), 『ひめゆり: 女師・一高女写真集』(沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会), 鄭世華『깨어있는 삶이고 싶어라』(鄭世華), 『한국교육의 사상적 이해』(정세화 외 공저), 女子高等教育研究会『女子高等教育の意味と機能に関する研究』(女子高等教育研究会), 因藤莊助『青い世界』(後志児童文学の会編), 『小樽をふたたび軍港としないために』(米空母に反対する市民の会), 清水碩『現代女性の手帖』(社会思想社編), Ronaq Jahan Pakistan (Ronaq Jahan), 八木江里 *The Reproduction of Mothering* (Nancy Chodorow), 柴山恵美子 *Il Laboro in Giappone* (Hideo Totsuka; Shigeyoshi Tokunaga), UN ESCAP *Integration of Women's Concerns into Development Planning in Asia and the Pacific* (United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific), Research Institute of Asian Women Sookmyung Women's University *Korean Women and Culture* (Research Institute of Asian Women), 柴山恵美子『現代日本の労働問題』(戸塚秀夫・徳永重良), 木下ユキエ『戦後日本における貧困層の創出過程』(籠山京), 館かおる『ジェンダーと階層意識』(尾嶋史章編), 『ジェンダーとライフコース』(岩井八郎編), 福岡多恵『移りゆく時をすごして』(都立第三高女四十六回生・都立駒場高校二回生), 内野光子『現代短歌と天皇制』(内野光子), 文芸社『国際結婚四十七話』(ジャッシーいく子)

6) 来館・閲覧者(抄)(敬称略、表記は記名による)

平成12年4月10日 Ranjana Sheel (Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai), 4月14日 竹内一晴(講談社), 4月21日 阿部ひで子(ウエスタンミシガン大学), 4月26日 石井妙子, 5月9日 田中弘子(愛媛大学), 5月12日 藤田憲子(東京海上火災保険株式会社), 6月2日 萩谷邦夫(富士ゼロックス株式会社社会貢献推進部), 6月16日 志甫哲夫, 6月16日・19日 ケイ・ウォーレン(ハーバード大学), 6月20日 Chigusa Kimura-Steven (University of Canterbury, New Zealand), Janine Morgan (Massey University, New Zealand), 6月21日 白田明子(豪ニューサウスウェールズ大学大学院), 7月4日 笠原和子(本学人間文化研究科発達人間科学), 7月6日 Hwan-Seung Yong (Ewha Womans University), Myung Kim (Ewha Womans University) 他4名, 7月11日 小林祐子(フェリス女学院大学院), 7月18日 諸岡道子(放送大学), 7月25日 小川美穂子 (The University of Toledo,

USA), 7月28日 森川友義(早稲田大学), 7月31日 中尾仁則(早稲田大学), Patricia Cladis (Ado Liquid Crystal Technology Inc.), 8月1日 藤田憲子(東京海上火災保険株式会社), 森口広美(東京大学学生部), 8月3日 上野曉美(ロンドン大学院卒), 8月7日 柳林祥子(早稲田大学助手), 8月22日 密田淳子(雄松堂書店), 8月23日 中尾仁則(早稲田大学), 8月28日 安澤梨花(津田塾大学), 9月7日 桜井恵子(桜華女学院中・高等学校), 9月8日 光田由紀子(有限会社トライアンス), 9月21日 山本恵美 (University of East Anglia), Urvashi Butalia (University of Delhi), 10月20日 陶笑虹(中国武漢华中师范大学教授), 押川文子(国立民族学博物館), 10月26日 ファティマ・ビーヴィ(元インド最高判事), C・ラジャセーカル(インド大使館) 他1名, 11月9日 富永智津子(宮城学院女子大学), Cora Presley (Georgia State University), 11月17日 Pam Rajput (Panjab University),

11月28日 山下愛子(聖学院大学), 11月30日 田子敏也, 12月6日 山根智恵(山陽学園短期大学), 12月14日 Miriam Silverberg (UCLA Center for the Study of Women), 12月25日 Dorota Gierycz (UN Gender Analysis Section), 1月10日 玉利智子 (Nottingham Trent University), 1月23日 山内恵(東京外国語大学院), 2月8日 廣岡敏美(奈良県立大淀高等学校), 2月16日 高松香奈(アジア工科大学院), 2月19日 小林富久子(早稲田大学), 3月1日 Boco Epouse Ali Assiba Agnes (Benin 教育・科学省), Chhun Sok Yean (Cambodia 教育・青少年・スポーツ省), Yelfign Worku Jemberie (Ethiopia 教育省), Durce Maguy (Haiti 青少年教育・スポーツ省), Evelyn Chinguwo (Malawi 教育・科学・技術省), Ram Prasad Bashyal (Nepal 教育・スポーツ省), Zeinab Al-Qasmi (Oman 社会・労働・職業訓練省), Mwanaidi Saleh Abdalla (Tanzania 教育省), 3月14日 佐藤千鶴子(日本国際協力センター), Shadia Nusseir (The Jordanian Hashemie Fund for Human Development), 3月26日 光末紀子(神戸大学国際文化学部), 鈴井江三子(広島県立保健福祉大学), 宗像恵(神戸大学国際文化学部教授), 曾根ひろみ(神戸大学国際文化学部教授), 3月27日 石川みどり(女子栄養大学大学院)